

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇哲洋

授業科目名	選択実習
研修先（国・地域） 滞在地	インドネシア・セントラルジャワ・スマラン、ジェバラ、ディボネゴロ大学 アメリカ・フロリダ・マイアミ大学
研修期間	2017年4月10日～6月2日／2017年6月12日～7月7日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>他の国の学生の医学に対する取組や、それぞれの持っている文化の違いに気がつき、また、医学教区の違いについても体現できたようです。発展途上国と先進国との違いについても、広く学んでくれました。</p> <p>本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦労ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重をしてくれました。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義でした。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言えます。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>インドネシア、USAともに大きな問題は無かった。</p> <p>広く学生に告知し、学ぶ機会が均等になるような配慮が求められる。</p>	

（記入にあたっての注意）

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇 哲洋

授業科目名	選択実習
研修先（国・地域） 滞在地	アメリカテネシー州メンフィス St.jude children's research hospital (セントジュード小児研究病院)
研修期間	2017年3月18日 ～ 4月30日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>本学生は、入学前に研究歴を有し、研究と臨床の両方ができる小児科医を目指している。学生時代に、世界最先端の診療に研究を融合させ実践している米国の医療機関で実習できたことは、自らの志と夢を実現させるために大変有意義と経験となった。今回は、真に目的に合致した実習先であり、実習先の受け入れも良好であった。特に、研究と診療の融合は、日本でも行われているものの限定的であり、実習先で機能的で網羅的な融合が学べたことは、大きな成果の1つであった。これは、本人の望む小児医療の在り方であり、今後、日本における同分野の発展への貢献が期待できる人材に、最良の機会を与えることができた。</p> <p>海外で行う実習目的の1つに、視野の拡大がある。今回の実習では、日本ではなかなか経験できない多民族社会における医療、マイノリティーに対する医療、患者や家族のQOLを高める取り組みなど、多くの学びが得られ、視野の拡大に大変有用であった。また、海外から日本を見つめなおす機会が得られたことも、今後の医師や医療の在り方を考える礎の1つとなり、更に人間力の涵養にも有用であった。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言える。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本実習先に関しては、特に課題はない。</p> <p>本支援事業に関しては、初年度であったこともあり、学生への広報の期間や機会が限られてしまったことが課題である。平成29年では、この課題を解決するために、既に医学部教務委員会医学科部外で検討を始めている。</p>	

(記入にあたっての注意)

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇哲洋

授業科目名	選択実習
研修先(国・地域) 滞在地	ドイツ・ハノーファー、国際神経科学研究所
研修期間	平成29年5月16日 ~ 6月21日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>①日本では体感できないレベルの医療を伝聞ではなく自分の目で見て実感すること、 ②自分が苦手とする英語を常に使う環境に身を置くことで少しでもスキルアップし将来に繋げること、 を目標として掲げ、前向きに実習に取り組んだようです。</p> <p>多くの国々の学生や医師と関わり、海外ならではの経験ができたようです。</p> <p>本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦勞ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重をしてくれました。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義でした。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言えます。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本実習先に関しては、特に課題はなかった。</p> <p>例年通り、行っていきたいが、選抜方法について、公平性に問題があることも指摘され、来年度の課題である。</p>	

(記入にあたっての注意)

タイプA(地域貢献型)及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇哲洋

授業科目名	選択実習
研修先（国・地域） 滞在地	ドイツ・ハノーファー、International Neuroscience Institute（国際神経科学研究所）
研修期間	2017年 5月 17日 ～ 2017年 6月 17日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>Bertalanffy教授の脳幹部手術など、日本では頻繁に経験できない手術の見学ができ、理解が深まった様です。</p> <p>世界中からの見学者とも交流し、世界観が広まったことも伺えます。アカデミックな視点の重要性も、改めて確認出来た研修となったようです。</p> <p>本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦勞ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重をしてくれました。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義でした。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言えます。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本実習先に関しては、特に課題はなかった。</p> <p>選択に関して、公平性が保てるように改革が必要です。</p>	

（記入にあたっての注意）

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名：医学部・教授

氏 名： 大脇哲洋

授業科目名	選択実習
研修先(国・地域) 滞在地	カナダ、トロント小児病院
研修期間	平成29年 4月 19日 ~ 平成29年 6月 30日
〔研修の成果〕 日本以外での教育制度や、臨床研究のあり方など、語学以外の重要な要素を学べたようです。 本学の「自主研究」では学びの少ない、語学の重要性、他の文化を学び、考えることができたと感じます。 本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦労ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重をしてくれました。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義でした。 この研修を通じて、今後の研究や臨床活動に活かしていきたいと考えています。	
〔今後の課題〕 本実習先に関しては、特に課題はなかった。 今後も継続して、当該施設での選択実習ができるように配慮していきたい。	

(記入にあたっての注意)

タイプA(地域貢献型)及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇哲洋

授業科目名	選択実習
研修先（国・地域） 滞在地	アメリカ合衆国、マイアミ大学
研修期間	2017/5/15～2017/7/7
<p>〔研修の成果〕</p> <p>複数のマイアミの施設で、アメリカにおける教育の実践を見、臨床への接し方を学んだことは、非常に有意義な経験だった様です。異国の文化を学び、また、それを受け入れる体験もしてくれました。</p> <p>本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦労ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重であった。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義であった。</p> <p>以下トトリ 今回の研修で大きな成果が得られたトニエス</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>例年通りの、重要な経験をもたらす学習ができた。</p> <p>特に問題はないものとする。</p>	

（記入にあたっての注意）

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇 哲洋

授業科目名	選択実習（医学部医学科6年生）
研修先（国・地域） 滞在地	アメリカ合衆国フロリダ州マイアミ・マイアミ大学
研修期間	2017/4/8～2017/6/9
<p>〔研修の成果〕</p> <p>本学生は、海外の医学生の学ぶ姿勢の高さと臨床能力の高さ、医師育成指導の違い、質の高いチーム医療、異文化社会におけるコミュニケーションなどを学んできた。</p> <p>アメリカの医学部における学生は、日本における卒後研修医ほどの働きをしていることや、それに対応するためにしっかり勉強をしていること、さらに看護師などコメディカルの高い医療レベルや大きな役割を担っていることを実際に体験できたことは、これからの高度医療や地域医療を担う医学生としての責務の自覚とやる気を向上させるために有用であった。また、グローバルな人材を育成する上で重要なコミュニケーションの重要性を自覚し、英語でチャレンジしてきたことも有意義な体験となった。</p> <p>特にコミュニケーションに関しては、多民族社会において、自分を的確に表現し、積極的に関わっていくことの重要性を、様々な場面で体験し、実感できたことは大きい。これは日本ではなかなか経験できないことであり、人間力の涵養に大変有用であった。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言える。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本実習先に関しては、特に課題はなかった。</p> <p>本支援事業に関しては、初年度であったこともあり、学生への広報の期間や機会が限られてしまったことが課題である。平成29年では、この課題を解決するために、既に医学部教務委員会医学科部外で検討を始めている。</p>	

(記入にあたっての注意)

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇哲洋

授業科目名	選択実習
研修先（国・地域） 滞在地	アメリカ合衆国フロリダ州マイアミ大学移植外科
研修期間	2017年4月9日～7月7日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>日本では殆ど体験できない、脳死患者からの臓器移植を通じて、日本と米国との国民性や文化の違いを深く学んでくれたようです。</p> <p>移植外科の特徴や、米国の医療制度そのものにも興味を持って取り組んでくれたようです。</p> <p>本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦労ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重をしてくれました。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義でした。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言えます。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本実習先に関しては、特に課題はなかった。</p> <p>例年通り行っていきたいが、指導医の交代の可能性があり、今後の進め方に問題を残している。</p>	

(記入にあたっての注意)

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏名： 大脇 哲洋

授業科目名	選択実習
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・マイアミ マイアミ大学
研修期間	2017/03/11 ~ 2017/05/14
〔研修の成果〕 本学生は、海外の医学生の意識の高さと臨床能力の高さ、アメリカの医療の質、英語力の必要性、日本との文化の違いなどを学習することができた。 アメリカの医学部における学生は、日本における卒後研修医ほどの働きをしていることや、それに対応するためにしっかり勉強をしていることを体験できたことは、これからの高度医療や地域医療を担う医学生としての責務の自覚とやる気を向上させるために有用であった。また、グローバルな人材を育成する上で必要な英語力の重要性を当たり前のもので自覚し、向上にチャレンジしてきたことも有意義な体験となった。 海外で行う実習目的の1つに、視野の拡大がある。今回の実習では、日本ではなかなか経験できない多民族社会における医療、マイノリティーに対する医療、その中での医療の選択など、多くの学びが得られ、視野の拡大に大変有用であった。また、海外から日本を見つめなおす機会が得られたことも、今後の医師や医療の在り方を考える礎の1つとなり、更に人間力の涵養にも有用であった。 以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言える。	
〔今後の課題〕 本実習先に関しては、特に課題はなかった。 本支援事業に関しては、初年度であったこともあり、学生への広報の期間や機会が限られてしまったことが課題である。平成29年では、この課題を解決するために、既に医学部教務委員会医学科部外で検討を始めている。	

(記入にあたっての注意)

タイプA(地域貢献型)及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇哲洋

授業科目名	選択実習
研修先（国・地域） 滞在地	アメリカ・フロリダ、マイアミ大学
研修期間	2017年 5月 13日 ～ 2017年 7月 3日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>日本では経験することが難しい、移植の現場を体験することができたようです。</p> <p>また、異文化ともふれあい、これからの臨床医としての考え方に大きな進歩を生む経験ができたと思いました。また、米国における、臨床教育の現場を見、これからの教育の現場でも生かせる体験ができたようです。</p> <p>本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦労ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重をしてくれました。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義でした。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言えます。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本実習先に関しては、特に課題はなかった。</p> <p>例年通り、行っていきたいが、選抜方法について、公平性に問題があることも指摘され、来年度の課題である。</p>	

（記入にあたっての注意）

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇 哲洋

授業科目名	選択実習
研修先（国・地域） 滞在地	アメリカ合衆国マサチューセッツ州 Massachusetts General Hospital
研修期間	2017年5月3日 ～ 2017年6月26日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>本学生は、海外の麻酔科の教室で、臨床のみならず、研究について学び、臨床分野における基礎医学や研究の重要性や面白さに気づき、医学の発展に寄与する姿勢を最先端の臨床研究の場で学んできた。</p> <p>本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦勞ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重であった。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義であった。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言える。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本実習先に関しては、特に課題はなかった。</p> <p>本支援事業に関しては、初年度であったこともあり、学生への広報の期間や機会が限られてしまったことが課題である。平成29年では、この課題を解決するために、既に医学部教務委員会医学科部外で検討を始めている。</p>	

(記入にあたっての注意)

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 医学部・教授

氏 名： 大脇哲洋

授業科目名	選択実習
研修先（国・地域） 滞在地	アメリカ、デトロイト、ウェイン州立大学（ミシガン小児病院）
研修期間	2017年4月15日 ～ 6月25日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>医学部の実習では触れる機会が少ないプログラミングなども体験することができ、今後の臨床での視野が広がる経験ができたようです。また、施設でのカンファレンスにおいて、脳神経外科、神経内科の医師だけでなく、臨床心理士、放射線科医師、看護師、言語聴覚士、栄養士など色々な職種のスペシャリストが集まって合同で患者の治療方針などを話し合うなど、多職種連携も体験でき、有意義なものとなったようです。</p> <p>本学のカリキュラムでも、「自主研究」科目で、研究を学び体験しているが、留学先で語学に苦労ながら、最先端の臨床医学や研究に接しながら、課題に対しより深く考察することや研究の重要性、面白さに自ら気づいた体験は貴重をしてくれました。臨床医であっても、探究心を持って患者さんに接し、課題を明らかにしていく姿勢は、患者さんの診療のみならず、医学の発展に無くてはならないことである。その姿勢を、自ら望んだ留学の場で学べたことは有意義でした。</p> <p>以上より、今回の研修で大きな成果が得られたと言えます。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本実習先に関しては、特に課題はなかった。</p> <p>今後も継続して学生を送ってきたい。</p>	

（記入にあたっての注意）

タイプA（地域貢献型）及びタイプBは、地域貢献や地域活性化に資するグローバル人材育成についての成果を必ず記載してください。鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に本報告書を掲載する場合があります。